

日本OR学会賞

2014年度学会賞のうち、業績賞、普及賞、実施賞について、表彰委員会で選考のうえ、理事会にて以下のとおり決定されました。

各賞は2015年3月26日の春季研究発表会（東京理科大学）にて贈呈されました。

第16回業績賞

● 山上伸 氏（東京ガス(株)）

[選考理由]

山上氏は1979年東京ガスに入社しORチームに配属されて以来、ずっとORの研究・応用・実践に注力してきた。会社内での立場は変わりつつも、一貫してOR手法を用いた問題解決・意思決定を図り、企業内でのOR普及と実践を推進している。初期にはガス販売計画策定、器具普及率の調査・推定、ガス料金改定に伴う顧客の料金選択遷移シミュレーションや販売戦略策定のためのさまざまな顧客特性分析を行い、その後、研究組織の立ち上げを主導し、研究所においてエネルギーマクロモデル、ゲーム理論による販売チャネルへのインセンティブ最適化などを実施した。また、プロジェクトマネージャとして在庫理論を活用した最適配送システムを構築している。2000年代には企画部門のマネージャとして、エネルギー自由化に備えて金融工学を適用する市場リスク管理機能を立ち上げた。さらに2014年からは、ガス生産部門のトップとして、LNGタンクやLNG船の最適運用や最適ポートフォリオの構築、AOT (Asset Optimization & Trading) を推進している。OR学会においては副会長・庶務理事・代議員・各種委員を歴任、また、多くの論文発表を行っている。

これらのことから、山上氏がORの実践に果たした役割は大変大きく、本学会業績賞にふさわしいと判断し、業績賞を授与することに決定した。

第40回普及賞

● 上田徹 氏（成蹊大学）

[選考理由]

常設研究部会「評価のOR」は1994年に研究グループとして立ち上げられたのが最初であるが、上田氏は当初から2011年に至るまで何度もこの研究部会の

幹事や主査を歴任している。特にDEAの普及に努め、教科書*Data Envelope Analysis: Theory, Methodology and Application*を翻訳して『経営効率評価ハンドブッカー包絡分析法の理論と応用一』として出版したり、ORセミナーにおいて講師を務めてDEAを紹介したり、市民向けのDEAの講演を企画するなどしてきた。近年には、国際会議DEA Symposium 2012のChairも務めている。また学会内では、機関誌編集委員長・表彰委員・研究発表会の実行委員長などを歴任した。

これらの活動は本学会普及賞にふさわしいと判断し、普及賞を授与することに決定した。

● 逆瀬川浩孝 氏（早稲田大学）

[選考理由]

逆瀬川氏は「待ち行列」および「モンテカルロ・シミュレーション」分野の日本におけるリーダー的存在である。逆瀬川氏は、OR学会の「待ち行列」研究部会の幹事や主査を務めるほか、1994年国際会議*New Directions in Simulation for Manufacturing and Communications*を開催し、ORセミナー・シンポジウム等での多数の講演を行ってきた。また、「システムシミュレーション」「確率とその応用」「Excelで学ぶオペレーションズ・リサーチ」「Rで学ぶ統計解析」など、初学者がORを手軽に利用するための参考書を数多く出版し、ORの普及に大きな役割を果たしている。学会内では、機関誌編集委員長・庶務理事・研究発表会の実行委員長を歴任した。

これらの活動は本学会普及賞にふさわしいと判断し、普及賞を授与することに決定した。

第39回実施賞

● 東京ガス株式会社

[選考理由]

同社は1971年にORチームを発足させて以来、ORの実践を継続的に実施しており、1994年に第19回実

施賞をすでに受賞している。前回の受賞から20年が過ぎているが、その間にもORの適用領域を拡大・深化させながら継続的に多くの成果を取めていることが評価された。数多くある成果の中には、LNG船の配船計画を加味した生産基地操業オペレーションの最適化、巡回セールスマン問題を応用した保安点検ルートの効率化、ガスメータ・工事材料・ガス機器部品の物流最適化、大規模地震発生時の事業継続計画における人員シミュレーション・最適化といったものが挙げられる。このうち、たとえばLNG船の配船計画を加味した生産基地操業オペレーションの最適化では、年間約300隻のLNG船を3カ所の基地、40のタンクに受け入れている東京ガスのシステムにおいて、操業オペレーションを数理計画問題として定式化し、操業計画の作成を支援するモデルを構築、導入している。これらの成果のうち多くがOR学会において発表されており、ORの威力を知らしめることとなっている。

これらの活動は本学会実施賞にふさわしいと判断され、実施賞を授与することに決定した。

● (株)三菱UFJトラスト投資工学研究所

[選考理由]

1988年の会社設立以来、さまざまなOR手法を用いた金融工学投資技術を開発し続けている。その成果

は三菱UFJ信託銀行の資産運用業務に利用され、わが国の公的年金・企業年金など重要な資金の運用に活かされている。同社の業績はポートフォリオ構築、投資適格判断などいくつもあるが、ここでは紙数の都合上一つだけ、数理計画を用いたポートフォリオ構築システムを紹介する。数多くの株式や債券を組み合わせたポートフォリオを構築する問題に対し、銘柄間の相関構造まで利用した精緻なポートフォリオ構築を目指し、さらに取引コストなどの非凸な制約条件を考慮して最適化問題として定式化した。そして、現実的な時間で精度の高い最適解が得られるようアルゴリズムや定式化に工夫を施し、それをシステムとして実装した。同社は研究発表会・OR誌への発表も多く、大学等との共同研究も数多く実施している。

これらの活動は本学会実施賞にふさわしいと判断し、実施賞を授与することに決定した。

【2014年度表彰委員】

加藤直樹（委員長・京都大学）、村松正和（電気通信大学）、池上敦子（成蹊大学）、栗田治（慶應大学）、関谷和之（静岡大学）、滝根哲哉（大阪大学）、西川武一郎（(株)東芝）、水野眞治（東京工業大学）、吉瀬章子（筑波大学）